

プログラムの概要

泌尿器科の特徴:

- 対象臓器:** 尿路(腎、尿管、膀胱)、男性生殖器(前立腺など)、内分泌臓器(副腎、副甲状腺)の疾患。
対象疾患: 悪性腫瘍(腎臓、尿路、性器)、腎不全治療(腎移植、透析)、下部尿路機能障害、先天性腎尿路疾患。
対象患者層: 高齢者、女性、小児のすべてが対象で、需要は極めて多いです。大学病院では、前立腺癌、腎癌、膀胱癌、腎盂尿管癌などの悪性腫瘍の外科治療が中心ですが、関連病院では尿路結石、前立腺肥大症などの良性疾患が多くなります。
外科治療: 開腹手術もありますが、低侵襲手術・内視鏡手術が中心です。
da Vinciを用いたロボット支援腹腔鏡下手術も実施しています。
自己完結型診療科: 診断、治療からフォローまで泌尿器科で行います。
外来診療: 様々な検査、小手術もあります。
手術以外の領域: 薬物療法(排尿障害、感染症、癌化学療法、性機能障害)、人工(血液)透析、腎移植における免疫抑制療法。
将来の開業: 泌尿器科専門医の約30%は開業医です。高齢患者における前立腺疾患、尿失禁などの需要は増大し、将来性が非常に高いです。



医局内のドライボックスを用いた内視鏡手術実習。BCC、ACCで、指導を行います。



シミュレータ室内に設置しているdaVinciトレーニング用シミュレータ。24時間使用可能です。初期研修医対象の講習も行っていきます。

プログラムの特徴: 以下のすべてをローテートします。

1. 低侵襲外科治療グループ
2. 腎不全・腎移植グループ
3. 女性泌尿器科・排尿障害・小児泌尿器科グループ
4. 悪性腫瘍グループ

教育システムの特徴:

1. 1年目からの臨床技能教育
2. 最短期間での専門医資格取得;泌尿器科、腹腔鏡下手術、透析医療等

アピールポイント

臨床においては、一般泌尿器科疾患はもちろん、下部尿路機能障害、腎不全治療、女性泌尿器科、小児泌尿器科、泌尿器悪性腫瘍、内分泌代謝疾患、腎移植などの各種専門分野すべてを学べます。動物を用いた腹腔鏡下手術研修を行い、さらに最先端外科治療であるda Vinci手術チームに参加できます。研究においては国際学会、国内学会への参加・発表を積極的に推奨しています。

2022年 集合写真



2019年9月 日本排尿機能学会



井原達矢学部内講師、望月孝規助教、志村寛史医師の3名が日本排尿機能学会学会賞の3部門を独占受賞しました。若手医師も積極的に国際学会・国内学会に参加し、発表を行っています。



新規導入されたda Vinci Xi



2013年4月に手術支援ロボットda Vinciを導入し、泌尿器科では根治的前立腺全摘除術、腎部分切除術、根治的膀胱全摘除術、腎盂形成術、仙骨固定術を年間100件以上実施しています。2022年度からは、副腎摘除術、腎全摘除術もロボット支援手術を開始します。

具体的な研修内容

後期研修1年目は大学病院での研修、2年目から関連病院での研修を行います。学外関連病院でも、腹腔鏡下手術、ロボット手術や前立腺レーザー手術の研修ができます。後期研修1年目は経尿道的内視鏡手術、開腹による小切開手術、血液透析用シャント手術等、3年目は前立腺全摘除術を目標とします。4年目終了時には泌尿器科学会専門医取得が可能です。大学院入学は、随時可能です。